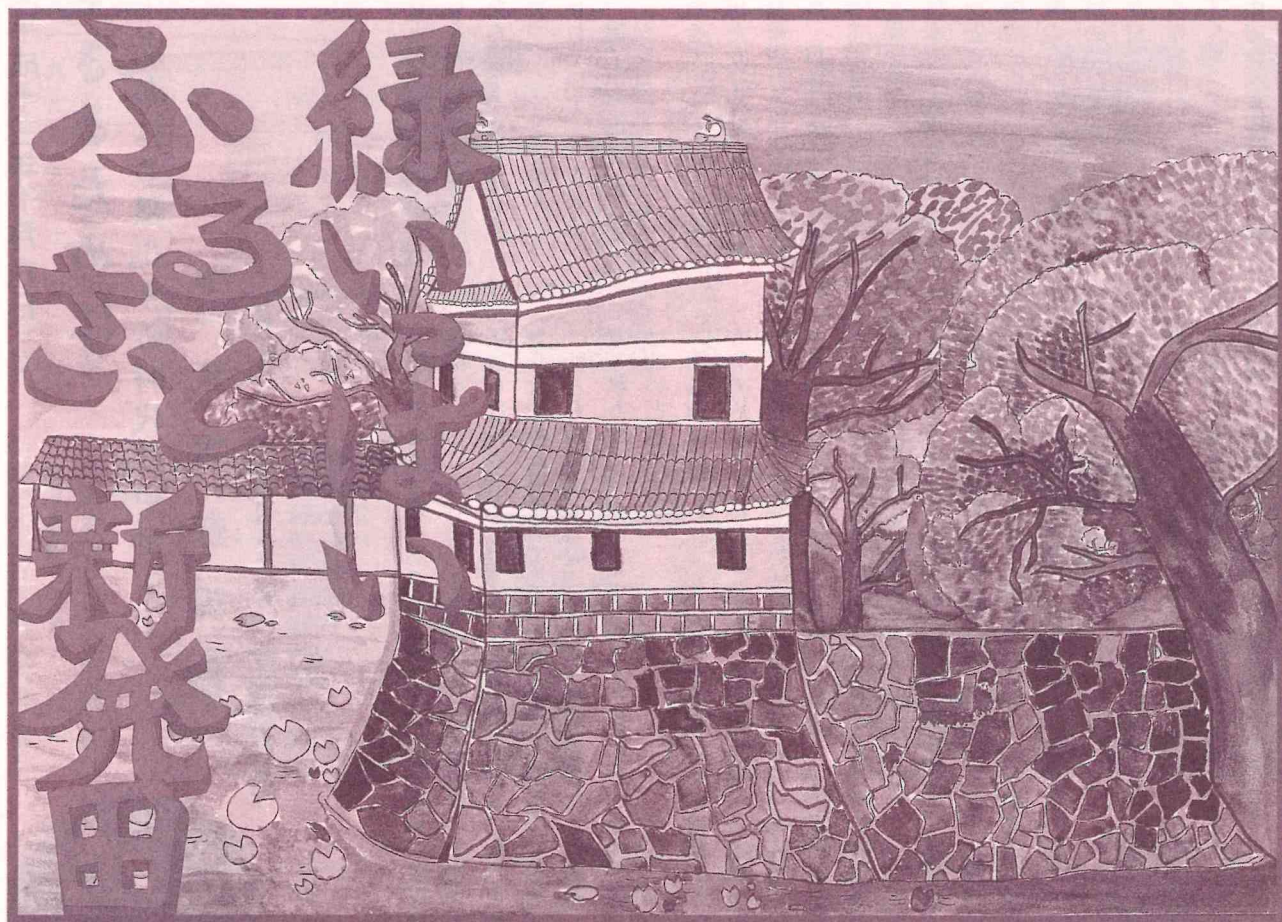


新発田青少年育成市民会議だより

はばたき

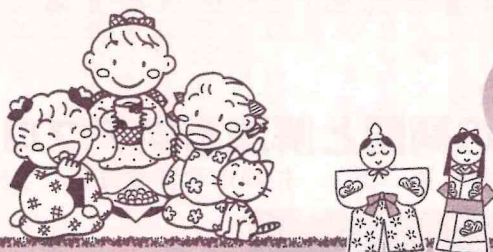
21世紀も市民みんなで手をたずさえて



外ヶ輪小学校六年 渡辺 明穂

私の家族

赤谷小学校 4年
渋谷 朋美



お姉ちゃんは勉強をおしえてくれる。

お母さんは、ご飯を作ってくれます。

そうだんにものってくれる。お父さんは、毎日働いている。

妹は毎日元気に遊んでる。

私は妹に勉強をおしえない。

だけど妹はかならずきく。

「ダメ。」と言つてもきく。

だから最後には、おしえてしまう。

時々おしえないと、

妹がお母さんに言い、

私がおこられる。

妹とケンカしても

私がおこられる。

だけど、

わたしのだいじな家ぞくだ。

発行 新発田青少年育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三六号
電話 (〇二五四) 二六一〇八九七

輝やいて生きるために

——急激に多様化する時代の中で——



講師 荒木 快 英 様

（村松町人材育成さくらんど桜藩塾塾長）



今の日本のような社会を成熟社会といいますが、ある一定の線まで豊かになって成熟いたしますと人間は未成熟になる。作詞家の阿久 悠は「子供たちに今一番不足しているのは、成熟であろう」と言っています。三十五歳位から下の世代は、少年ジャンプ世代と言われています。少年ジャンプから離れられない世代ですね。親子で子供をしている世代です。

子供にどのようにして自信を持たせていくかが、非常に大事だと思います。ある福祉科を出た女子生徒が、何の興味・関心もなかった教育実習で、お年寄りが手を合わせて感謝してくれたことから自信を持ち、福祉の道に進む気持ちになったと、卒業文集の中で述べています。これは現場から学んだ自分への自信であろうと思います。

豊かな社会でありながら、わが日本では食事風景が極めて貧困であります。いつでも好きなときに好きなものを好きなように食べられるという点で極めていい加減であります。嫌いなものは食べないから栄養のバランスもとれません。私も戦前・戦中派で、子供の頃は貧しいものしか口に入れられなかったけれど、母が自分の手を煩わして作るのを見ていました。今の子供たちが好きなハンバーガーなどは、何の苦労もなくコンビニですぐ買ってきてくれます。

それに昔の食事は、一家団欒の中で食べたということが今と決定的な違いです。そこでマナーの指導も情報の交換もできました。

栃木県と大分県のある町と村で、子供を褒め、表彰する条例をつくりました。子供を褒めるためには、子供をよく観察しなければなりません。そこで大人が変わった。これも健全な子供たちを育てる一つの方法だろうと思います。

私どもの研修は、何らかのかたちで子供たちに還元した子供たちにアタックできるものでないと、本当の研修ではないと思います。

出る杭は打たれますが、意見を批判するのは関心があるからだと考えればいいんです。足を引っ張る人を敵とは思わず辛抱強くやってみましょう。それから、なんといつても言い出しつべの勇氣を持つことです。「お前やれ」と言われたらやつていただきたい。少なくとも学びから実践へというのはそういうことです。

最近多くなっている子供の顔は、無表情という顔ですね。感動、感性、喜怒哀楽が表に出てこない。だが、県の中学生の健康に関する三つの標語のうち、二つが笑顔に触れています。いかに笑顔が、子供の心に、中学生の心に大きい働きをもつかがわかります。

不老長寿と健全育成に関する特効薬はないと言われますが、われわれは常備薬ぐらいにはなれるのかもしれない。あるいは毒消し程度になるかも知れません。それぐらいの気持ちでわれわれはやりたいと思っています。

（文責 広報委員 渋谷武雄）

平成13年度 青少年育成指導者研修会

「青少年の心の問題と解決志向アプローチ」

講師 小林 東 様 柏崎市教育委員会 学校教育課主査 カウンセラー



小林氏は県内の子どもの達の一般的な心理特徴について「勝手意識が強い」、「欲求不満が多く、耐性に弱い」、「合わせ上手」と指摘。

そんな子ども達の諸問題に対して、受身的な対応のみでは解決しにくい場合、具体的な質問を通して問題を浮上させると言う。

問題が芽生えないためのアプローチとしては、自己決定、自己選定、責任性等の教育が大切になってくるだろうと語られた。

具体的な言葉かけの例を通しての諸問題解決への技法は、大変参考になりました。

平成13年度

「青少年育成国民運動実践調査研究事業」の取り組みから……

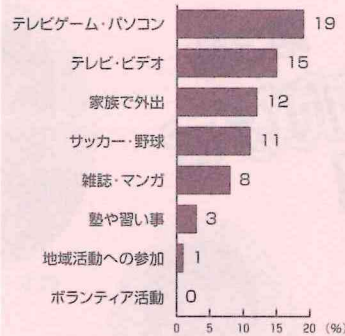
新発田青少年育成市民会議は、国民会議からの事業指定を受けて、「子どもを健やかに育てるために地域育成協議会はどうあったらよいか」をメインテーマに、子どもの主体性を生かした活動・世代間の交流・学校週五日制の視点から実践、調査、研究に取り組んできました。

調査研究の推進に係わって組織された地域実践委員会が、市内小学校（四校）のご協力を得て、高学年児童とその保護者各百名を対象に「生活実態と意識の調査」を実施しました。

調査項目から五つの設問を抄出し、結果と考察を併記します。

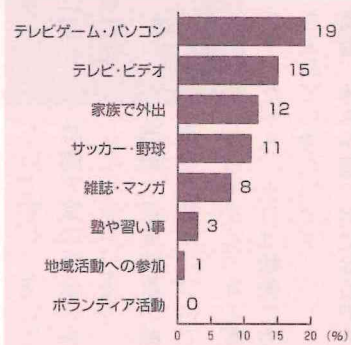
〈小学生への設問〉

1. 土曜や日曜、休日をどう過ごしているか。



◇考察

- ・室内で過ごす時間が多い。
- ・ボランティア活動の機会を設定する必要がある。
- ・子どもたちが参加したいと思う活動の受け皿が少ない。
- 2. 来年度から増える休日はどう過ごしたいと思っているか。

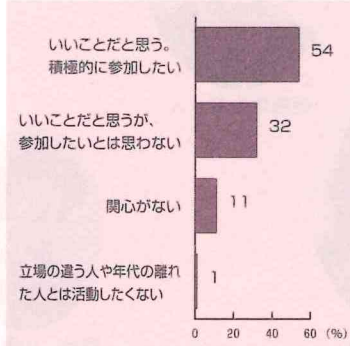


◇考察

- ・集団への所属感、参加意識が強い。
- ・生活体験の拡充を図る必要がある。
- ・「勉強に力を入れる」は、学

力低下を心配してのこと。

3. 地域で、立場や年代の違う人たちと話し合ったり、活動することはどう思うか。



◇考察

- ・人間関係の調整力がない。
- ・コミュニケーションのとり方を知らない
- ・働きかけ次第で、活動したいと思うようになる。

〈保護者への設問〉

1. 学校週五日制によって増加する自由時間を、子どもはどう過ごしてほしいと思うか。



◇考察

- ・保護者が子どもに期待する内容は多様である。
- ・家庭外での活動に参加させた

いという意向もうかがえる。

・子どもは各種の活動を体験すること、その意義を理解するように。

2. 子どもたちに、大人との交流活動を体験させる上で、どんな困難点や問題点があるか。

(1) 価値観のずれ
○世代が異なるから、共通の話題が乏しくなる。

○大人も二十代から八十代まで幅があるので、世代毎の交流が必要である。

(2) 指導態度・指導技術
○大人の都合や価値観を一方的に子どもへ押しつける。

○大人が子どもの扱いに慣れていないため、対応が不適切だったりする。

(3) 活動の組織・内容
○子どもと大人が一緒になって企画し、運営ができるような活動を考える必要がある。

○どこまでを子どもに任せるのか、線引きがむずかしい。

(4) 指導の体制
○土、日と休める人ばかりではない。時間を調整するための苦労が多い。

○リーダーシップをとれる人が少ないと、活動が不成功に終わってしまう。

◇考察
・大人も子どもも、人間関係の希薄化が根本問題である。

・子どもの思いを受け入れず、大人の考えを一方的に押しつ

けることは、意欲を失わせる。

・子どもの主体性を尊重し、計画立案の段階から参画させる工夫が必要である。

・交流活動を、事務的に消化していくだけではマンネリに陥る。地域の指導体制を見直し、活動の活性化を図ることが求められる。

事業の推進に伴う

四地区の実践活動

猿橋小学校区青少年健全育成協議会「健康ウォークぶどう狩り」を実施。親子二三〇名が参加。企画実践で、協力する大切さを体験。

住吉小学校区青少年健全育成協議会多様な体験学習を実施。「レッツまちなみ」をテーマに絵手紙、茶道、スケート等を体験。

佐々木小学校区青少年健全育成協議会「親子ふれあいスポーツ大会」を実施。ドッジボールとクイズに多くの親子が参加して善戦。

東豊学区青少年育成協議会「三世代ふれあいゲートボール」を実施。核家族が進む中、世代間交流の大切さを体験。

ご協力いただいた四地区の貴重な実践に感謝いたします。

当事業指定を受けて実施された取り組みが、子ども達のより健全な育成に活かされることを願いたいものです。

座談会出席者(敬称略)

片山 吉忠 新発田市長

桐生 拓 御免町小学校六年

藤田 章子 御免町小学校六年

池田佑太郎 猿橋中学校二年

高橋 詩穂 本丸中学校二年

横山 道信 新発田南高校二年

渡辺 歩 新発田中央高校二年

司会 山野辺 輝子

(青少年育成市民会議広報部長)

司会 いよいよ四月から学校週五日制がスタートします。これからみなさんがより有意義に貴重な日を過ごすためにそれぞれができることは何か、それらを一緒に考えていきたいと思います。

今日はたいへんお忙しい中、市長さんにもおいでいただきまして。

さて、休日が増えるということとでどんなふうに過ごしたいかみなさんの本音をぜひ聞かせていただきたいと思います。

増えた休日を どうするの？

渡辺 私は今年進路を確定しなければなりません、自分のやりたいことを見つけるために休みを使って大学見学に足を運んだり、資料で調べたりしたいと

思います。

横山 週五日制にな

つたら大学入試のための受験勉強をやりたいと思います。今の部活も続けていきたいですし、空いた時間で家の手伝いをしたいと思います。

池田 授業時数が減

るので勉強についていけるかどうか心配です。だから、土日は勉強に力を入れていきたいです。

高橋 休みが週二回になるのでうれしいです。週二日の休みをどうやっていくかはまだ決めていないのですが、私も受験生なので勉強をやりたいし、友だち



桐生 拓さん



池田佑太郎さん



渡辺 歩さん



司会 山野辺輝子

この信頼関係も深めていきたいです。

桐生 ぼくは中学校になると英語なんかも増えて勉強が難しくなるので、その休みを使って勉強したいです。

藤田 私は、特に勉強とかは好きじゃないので、休みの土曜日を使って友だちといっぱい遊びたいです。

司会 市長さんいかがでしょうね。子供たちの意見を今聞いたのですが、勉強したいという子が圧倒的に…。

市長 そんなに勉強したいか。正直に。本当はそうでないんだろうと思うんだけどね。いいこといったらどう。

桐生 本当いうと遊びたいと思う。

司会 いろいろな地域の行事などあるんですが、参加したいけどなかなか中高校生に魅力のある行事が少ないという意見が前に出ていたのですが…。

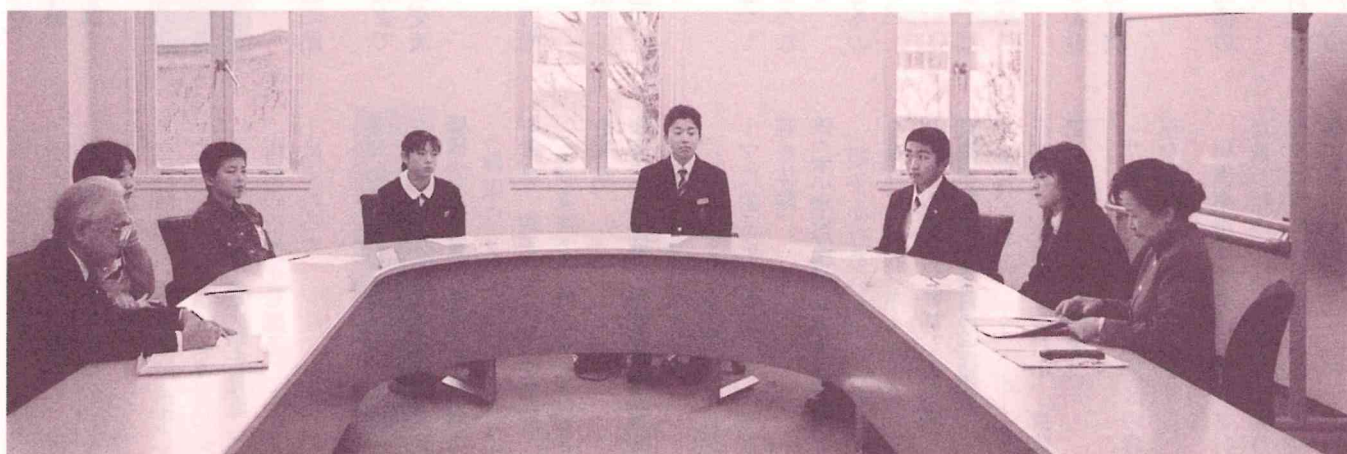
面白い行事を 増やして

渡辺 楽しい行事に参加したいのですが、そういう行事があることが高校に伝わってこないんですよ。

藤田 私の町内では人数が少なく、大人はお金がないからいろいろな行事ができないというのです。楽しい行事は増やしてほしいです。

桐生 うちの町内もいろいろやるんですけどあまり面白いというのはなく、もっと面白い行事をやってほしいなという気持ちです。

司会 桐生さんにとって面白い行事とはどんな行事ですか。

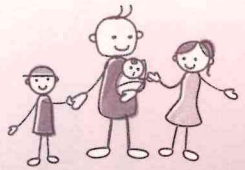


桐生 たとえば町内対抗で大会みたいなものをやるとかです。
司会 そういう意見を言う場所というのはないのですか。ほとんど大人の人たちが計画を立てていますか。

高橋 町内に住んでいる小学生のお父さんお母さんが話し合っていて決めているようです。小学生、中学生、高校生は面白さがそれぞれ違うと思うんですよ。小中高一緒にして地域行事をしようということとは難しいことだと思います。

司会 前の座談会の時に青少年の集まる場所が少ないという意見が出たのです。宿泊施設があると宿泊しながらコミュニケーションを図るような体験学習ができるのではないかという意見も出ていたのですが、その辺…
市長 学校開放もあるし、公的施設をそのために大いに活用していたら。それは地域の学校区であればPTAの方々と、町内会の方々が、子供主導でなく子供たちにアイデアを出させてそれをサポートしてやる。それが大人の責任であろうと思います。それから宿泊的な活動、それが一番いいですよ。今の子供たちが集団で討議をし、話し合いをすることが大事だと思っております。

2002年の取り 学校週五日制完 いよいよ



新発田市長さん



藤田章子さん



横山道信さん



高橋詩穂さん

こんな施設が欲しい

桐生 今学校の放課後に体育館で遊んでいるんですが、土曜日休みになったら学校の体育館を開放してもらってバスケットなどをやりたいんですが。

市長 前向きに検討してみます。

高橋 小学校の時は土日の部活は少ないが、中学生になったら宿泊に参加するのが難しいんですよ。部活に参加すると地域行事に参加することは無理なんです。

市長 地域行事が毎日あるわけではないからあんまり考えなくてもいいのではないかな。自分

の意見を先生に言った方がいいと思うね。

藤田 私は公園で動くのが好きなんです。五十公野公園のアスレチックは低学年向きで小さかったりしますので中学生向きのものを作ってほしいです。

市長 あそこを活用していくことは大切です。城址公園もできますし、西公園、東公園、カルチャー、五十公野公園、いろんな公園があるんですが、「どこへ行っても同じ」という金太郎飴公園は止めようじゃないか、町内の小さな公園は別として交流ができる大きな公園はきちっとした考え方を持った公園に造り変えていくことが大事じゃない

か」と施設整備に言っております。さつき出た子供たちが宿泊して活動できる施設は、升湯や群生植物もある五十公野公園がいいのではないかな。そこで自然学習ができるようにしたらどうかと考えています。理科の先生は植物を採らせなければわからないと言うし、もう一方の先生はそれを採ることは悪いことだと言う。子供たちのために本当に何が大事なのか、市民の皆さんに論議をいただいて、子供たちの考えも聞いて検討していきたいと思っています。

横山 話が違ってもいいんです。剣道の大会が中高校生の修学旅行の時期に重なるので参加したくとも参加できないんです。できれば時期を少しずらしていただくとありがたいのですが。

市長 修学旅行とぶつかるのであれば主催者側にきちつと伝えぶつからないように連携してやらなければならぬね。

渡辺 温水プールを作ってほしいです。

市長 プールについても考えているんです。ただお金の問題でできなかったんだけど、屋内プールというものをこれからは考えていかなければならないと思います。健康づくりでは水に

親しむのが一番いいって言うんですよ。歩くだけでも、ま、もうちょっと待ってもらえないかな。

桐生 御免町小学校の傍に南公園があつて秋頃からバスケットコートができたんですが、その他に野球場とかサッカーコートを作ってほしいです。

市長 そういう子供たちの声がありますよ、とお話ししておかなくちゃあね。

司会 勉強だけでなくそれ以外の、学校で得られない体験が大切だと言われますが、みなさんもそう思いますか。

なぜ参加しなければならぬの

池田 何で社会体育が大切で必要なのかわからないんですけど、ぼくたちはそういうところへ行くよりも、自分の家で友達と一緒に遊んでいた。社会体育のどういふところが大切なのか説明してほしいんですよ。

高橋 私は、参加することによっていろんな年の離れた人との出会いがあると思うんです。どうやって集団に協力するかとか学んだりできるので、地域の人とふれあうために参加することは大事だと思います。

横山 人の意見を聞きに行くの

ではなくて自分の意見を言いに行くとらえたいです。

渡辺 自分の友だちと参加して一緒に楽しむことが大きいと思います。

池田 年代の違う様々な人との関わり合い方を学ぶ、学べることはわかるんですよ。学ぶことより遊ぶことが好きなので無理やり学ぶところへ行かされるよりは、自分は家で友だちと遊んだ方がいいと思うんですよ。

市長 平成十年から四十年、死亡事故が県下三十三警察署の中で新発田管内がワーストワンで一番悪いんです。自由というのは、みんなが守らなければならぬ規則の中にあるんだよね。交通安全で「ルールを守りましょう」というときに「それは面白くないから参加しない」ということにはならないよね。お年寄りの交通事故が非常に多い。その時におじいちゃんやおばあちゃんはゲートボールのゲームの中に交通安全ルールを入れて左右確認をやっている。そして死亡事故が確実に減っている。子供たちにも面白くゲームを通してながら「こういうことは守って欲しいよ」というのを取り入れてやったら、みんな喜んで参加するのではないかな。やらされるというのではなく自発的に

ルールを守ることを、みんな広めていこうよ。

司会 信頼関係を築いていくために、これから自分たちがどんなふうにしていったらよいのかということを一言ずつお聞かせください。

藤田 集団の行事に積極的に参加して、最初はつまらなくともやってみようという気持ちでやりました。グループでやりすれば友だちが増えるので行事に参加したいです。

高橋 地域の交流としてスポーツ大会や親と子が組んだ野球大会などしていけばお互いの信頼関係もできるし、またスポーツ少年団を利用したら信頼の輪が広がると思います。

池田 軽い気持ちで参加できる行事があってもよいと思います。
司会 市長さん、最後に一言お願いします。

新発田のよさを学んでよい新発田をつくろう

市長 ここ新発田というのはお城と城下町、それに田園がある。私も食べているよね。食べなくては生きていけないんだ。しかし、それが自然にあると思っている。お父さんお母さんが働いているんだ。その働いていた

だいたお金で私どもが毎日生活できるんだ。そこに「ありがたい」が出てくる。こういう原点が今忘れられているんじゃないか。新発田は大事な土地があつておいしいお米がとれるところだ、こんな作物があるんだということを知ることによって、自分たちの新発田はこんなすばらしい新発田なんだ、ということをおさいときから学んでいただきたいと思います。ものを作る大切さ、楽しさを学校の中に取り入れてもらって、個でなく集団でそういうことをしながら、本当に人間として、また子供として、自分たちがやれることは何なのかを、土日という一年間あるうちの何日間かを勉強してほしい。

ぜひ、みんなでいいアイデアを出して、よい新発田を作るといふふうにしていただきたいなあ、と思います。

司会 これで終わりにしたいと思います。市長さんお忙しい中ありがとうございます。これから貴重な休日、いろいろな体験を通してできる多くの人の人間関係は、みなさんの一生の宝になることでしょう。みなさん、生の声を聞かせてくださってありがとうございます。

平成14年度市民会議総会のお知らせ

開催日 平成14年5月25日(土)

場 所 生涯学習センター

市民のみなさんの会議です。多数の御参加をお待ちしています。

おわりに

今年の冬は、時折晴れ間を見せながら、上手に雪を降らせました。名残りの淡雪も春の足音を聞きつけたようです。

さて、いよいよ四月から学校週五日制が完全実施されます。二年間にわたっていろいろな角度から取り組んできましたが、スタートの今回は、市長さんと子供たちとの座談会を実施しました。子供たちの本音とたてまえが交錯し、大人同様、揺れる複雑な心境が伺われました。

私たちは、子供たちがそれぞれの主体性を生かし、生きる力を身につけるべく、より有意義に過ごしてほしいと願っています。ここで私たちは、大人の願いと子供の気持ちのクロスポイントを改めて認識して、対応する必要があるかもしれません。なぜか心ときめく雪国の春、学校週五日制がよいスタートを切ることを願わずにいられます。

文責 山野辺

